
NPO活動促進助成・申請のポイント

埼玉県県民生活部 共助社会づくり課 活動支援担当



助成金申請のポイント

- ①なぜ助成金がほしいのか、確認
- ②助成金情報の収集
- ③「効果」について提案しよう
- ④はっきりと文章に表現



①なぜ助成金がほしいのか、確認

- 助成金を得る上で「どうして助成がほしいのか」という理由は不可欠
- 「第三者から支援」、相手を説得する必要
- 「何でもいい」はむしろ遠回り
- 要望に応じてくれる助成をさがす方が近道



②助成金情報の収集

様々な形で流れる助成金情報

- 新聞に掲載
- 助成団体の発行する広報紙やポスター
- インターネットで周知通知
- 社会福祉協議会やボランティア・市民活動センターの広報紙
- 社会福祉施設や機関、社協などの掲示板

実は助成金運営団体もPRの苦勞している。



→埼玉県では豊富な情報量で「コバトンびん」一択

<https://www.saitamaken-npo.net/html/jyoseikin/index.html>

③事業の「効果」について記載しよう

- 落とすための審査ではなく「効果に注目」
- **募集要項の補助金の趣旨説明、審査基準を熟読**
- 「助成の趣旨に沿った△△の支援を希望」という「具体的な提案」
- 「助成団体が期待する効果」を、この事業なら実現できる
- 過去の助成実績から傾向を調べる



④はっきりと文章に表現

- × 団体の紹介ばかり。何の助成を希望しているのかはっきりしない
- × 助成による効果が説明されていない
- 事業に対する思いを具体的に「文章」にしないと審査できない
- 採択されている事業内容を公開しています
例：令和4年度NPO基金採択事業

<https://www.saitamaken-npo.net/html/jyosei-seminar/R4josei/sdgs.htm>



埼玉県NPO活動助成事業

- SDGsの視点を持つ「NPO法人の特性」を生かして埼玉県内で実施する活動に助成
- NPO活動の持続的な発展を図るために県民や企業等の団体からの寄附金を積み立て
- 次の2つの活動区分に同時に申請可能、採択されるのは1法人につき1つのみ

SDGs推進活動助成

SDGsの視点を持ち、地域課題の解決に取り組む活動に助成

自立促進活動助成

SDGsの視点を持ち、地域課題の解決に取り組む活動で、特に事業収入により活動の継続性を高める新規性のある取り組みを含む活動に助成

「SDGsの5つのP」とNPO法人の活動分野

NPO法人の活動は、すべてSDGsに直結している

SDGsの5つのP	NPO法人の活動分野	補助率	事業規模	1件当たり 助成限度額
人間(People)	保健・医療・福祉、人権、社会教育、 人権、男女共同参画、子どもの健全育成、 職能開発・雇用拡充	助成対象経費の 9/10以内 ※ただし 設立3年以内法人 は10/10以内	助成対象経費 が20万円以上	(上限)50万円 (下限)なし
豊かさ(Prosperity)	まちづくり、観光、情報化社会、学 術・文化・芸術・スポーツ、災害救 援、科学技術、経済活動			
地球(Planet)	農山漁村・中山間地域振興、環境 保全			
平和(Peace)	地域安全、国際協力、消費者保護			
パートナーシップ (Partnership)	NPO等の中間支援、多様な主体 の協働			

審査の方法

- 審査基準に基づき「埼玉県共助社会づくり推進委員会」が審査、知事が交付、不交付を決定
- 埼玉県共助社会づくり推進委員会は、学識経験者、NPO 活動実践者等の委員で組織され、助成事業の審査、評価について意見
- 書類審査及び面接による。面接は、書面での実施に変更、または実施しない可能性あり
- 面接実施の場合は、メールアドレス宛に電子メールにて連絡
- 助成金の適正な交付を行うために必要があると認められる場合には、申請内容の修正や付帯意見、付帯条件を付ける「条件付き採択」
- 条件付き採択は、条件を満たした時点で採択となりますので、交付決定時期が遅くなる場合あり。

審査員の視点

- 多くの書類を見る。印象に残ることが大切。
- 独自性（他の団体でもできる？）
- 実現性（本当にできる？）
- 具体的な目標（成果はどのように？）
- 総合的に見た社会の中でのインパクト！



申請書作成のポイント（第1回埼玉県NPO助成研修・秋本講師） 「なぜ伝えるのか」

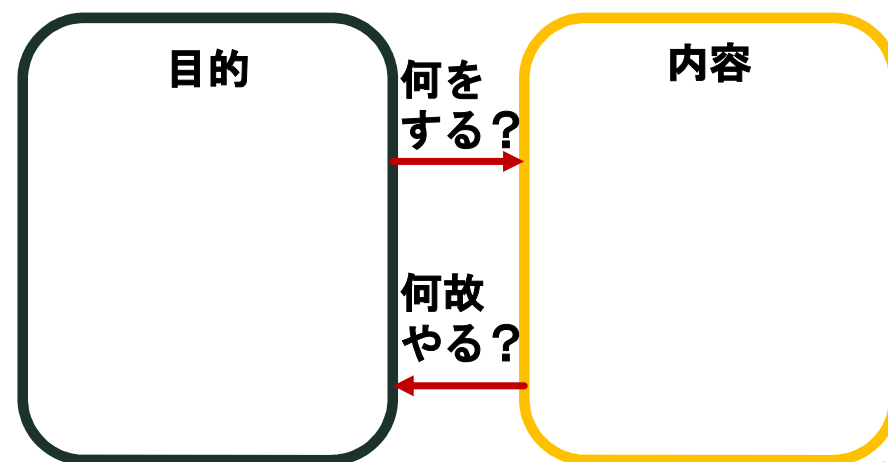
- 世間や社会ではなく審査員（助成団体）に「納得してもらおう」ために書類を書く。納得＝**「確かにそれは助成金が必要だよね」**と思ってもらおう。
- そのために必然性と実現可能性が必要。
- 必然性は**「目的」**と**「内容」**で、実現可能性は事業計画で示す。

申請書作成のポイント（第1回埼玉県NPO助成研修・秋本講師） 「目的」と「内容」

- 申請書を書く上で大切なのは「目的」と「内容」。

→ どのような課題が合って、それを解決するためにはどうすればいいか？

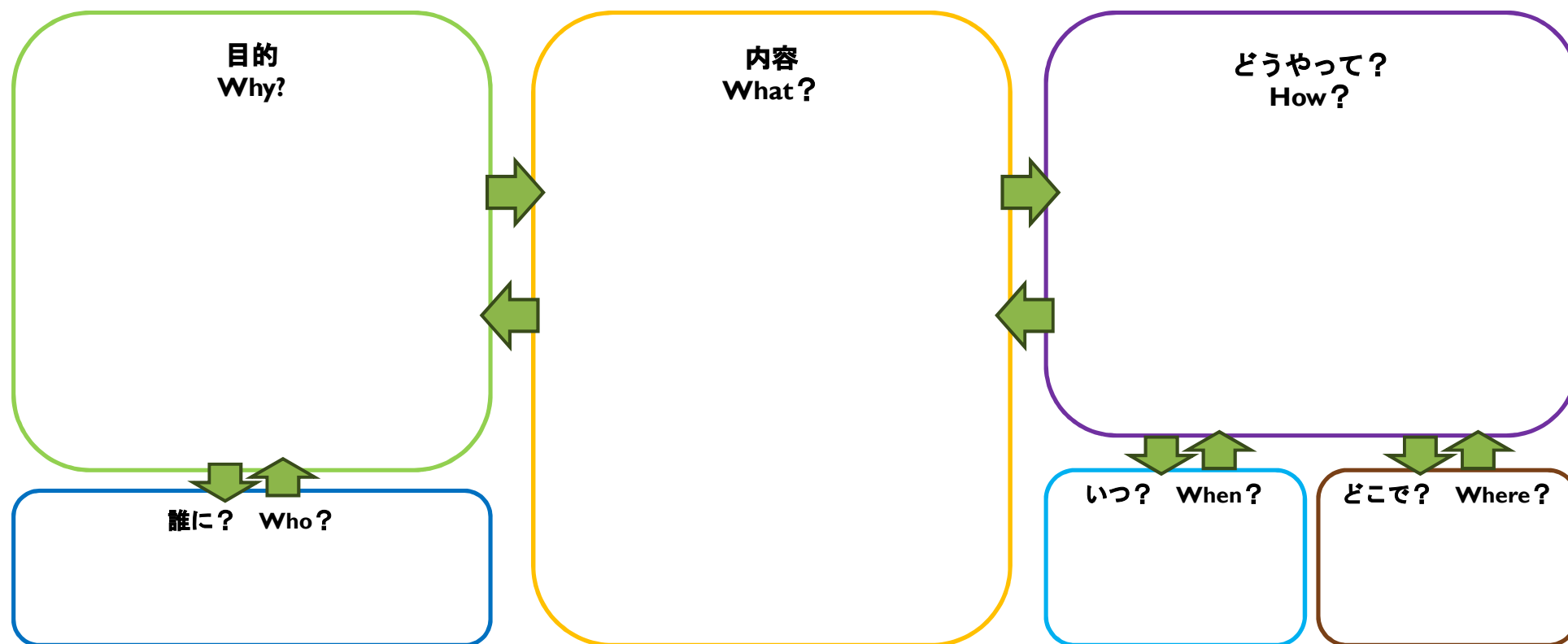
- 目的と内容を相互に深めながら考える。必要なのは「何故やる？」と「何をやる？」という問い。



申請書作成のポイント（第1回埼玉県NPO助成研修・秋本講師） 「どうやってやるか」

- そこが煮詰まってきた、そのあとに「**どのように？**」という問いが来る。
- ここが事業計画となり「スケジュール」「予算」「人員」などさまざまな要素が入ってくる。
- 「**目的**」と「**内容**」が骨子で、それに対していかに肉付けしていくかという感覚。

申請書作成のポイント（第1回埼玉県NPO助成研修・秋本講師） 「全体構造として」



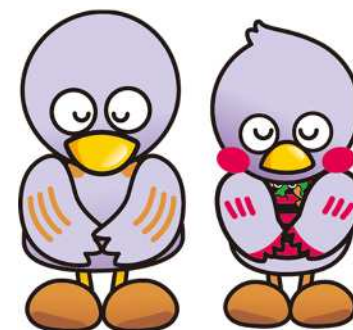
さいごに 1

- 以上のような考え方から、来年度、様式を変更
- 事業をより明確に説明できるように工夫した
- 皆様のご活用をお願いします

さいごに 2

埼玉県五か年計画（令和4年度～令和8年度）
施策37 多様な主体による地域社会づくり

- 企業、大学など他主体とNPOとの連携の促進
- 多様な主体による地域課題解決の取組の促進
- NPOの設立・活動支援



たまサポ(彩の国市民活動サポートセンター)

- 相談対応（相談フォーム /048-722-7116）
- 講座・イベントの開催
- 活動場所としても

<https://www.iki-iki-saitama.jp/kenkatsu/saisapo/>



たまサポ

(彩の国市民活動
サポートセンター)